

各位

会社名 株式会社サイトリ細胞研究所  
代表者名 代表取締役社長 星野 喜宏  
(コード：3750 東証スタンダード)  
問合せ先 取締役経営企画部長 藤村 剛  
(TEL. 03-6860-5701)

## 子会社による杉山産婦人科グループとの業務提携契約の締結に関するお知らせ ～ADRCsを用いた婦人科領域を対象とした研究開発の開始に向けて～

本日、当社子会社のサイトリ・セルセラピー株式会社（以下「サイトリ・セルセラピー」といいます。）は、医療法人社団杉四会 杉山産婦人科グループ（東京都世田谷区、理事長：杉山 力一）（以下「杉山産婦人科グループ」といいます。）と、脂肪組織由来再生（幹）細胞（Adipose Derived Regenerative Cells）（以下「ADRCs」といいます。）を用いた婦人科領域に対する研究開発について業務提携を行うことを決定し、本日付で業務提携契約を締結いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 業務提携の理由

当社グループは、メディカル事業にて、細胞治療サービスの提供、脂肪組織再生由来（幹）細胞を用いた細胞治療の研究、医療機器の製造・輸出入・販売を中心に展開しております。2022年2月には、グループ会社のサイトリ・セラピューティクス株式会社が開発した高度管理医療機器であるセルーション セルセラピーキット SUIについて、男性腹圧性尿失禁治療のための医療機器として、国内製造販売承認を取得しました。<sup>1)</sup> 今後、メディカル事業のさらなる拡大を目指しています。

杉山産婦人科グループは、70年以上の歴史を有する産科医療グループで、妊娠・出産のサポートのみならず、生殖医療（不妊治療）や産後のケアサービス等にも早期から積極的に取り組んでこられました。理事長の杉山力一氏は、不妊治療に対する医療費助成について日本政府への働きかけを行い、2022年より実現した保険適用にも多大な貢献をされました。

今般、当社グループが開発を進めているADRCsを用いた女性腹圧性尿失禁<sup>2)</sup>、不妊、産後の毛髪再生などの婦人科領域に対する治療法・活用法の研究開発を杉山産婦人科グループと共同で実施することとなりました。

#### 2. 業務提携の内容

- (1) 婦人科領域における各種データの共有
- (2) ADRCsを用いた女性腹圧性尿失禁及び不妊治療に関する共同研究・開発
- (3) 産後の毛髪再生や身体的回復など、ADRCsを用いた産後ケア療法の共同研究・開発

#### 3. 当社子会社（サイトリ・セルセラピー）の概要

(1) 名称	サイトリ・セルセラピー株式会社
(2) 所在地	東京都千代田区大手町一丁目1番1号

(3) 設立	2022年11月
(4) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 星野 喜宏
(5) 事業内容	脂肪組織由来細胞群を利用した細胞治療事業
(6) 資本金	10百万円

4. 業務提携の相手先（杉山産婦人科グループ）の概要（2023年9月21日現在）

(1) 名称	医療法人社団杉四会	
(2) 所在地	東京都世田谷区大原1丁目53番1号	
(3) 代表者の役職・氏名	理事長 杉山 カ一	
(4) 事業内容	産科・婦人科・生殖医療科クリニックの運営 高度不妊治療の研究	
(5) 設立	1999年10月	
(6) 上場会社との関係	資本関係	該当事項はありません。
	人的関係	該当事項はありません。
	取引関係	該当事項はありません。
	関連当事者への該当状況	該当事項はありません。

※財務情報等につきましては、相手方の意向を踏まえ記載しておりません。

5. 今後の見通し

本件が当社の2024年3月期の連結業績に与える影響は現時点では未定です。今後、開示の必要が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

以 上

1) 男性腹圧性尿失禁治療のための医療機器としての承認取得について

2022年2月9日公表「男性腹圧性尿失禁治療に関する医療機器の国内承認取得のお知らせ」  
<https://www.cytori-jp.com/wp-content/uploads/2022/02/2c771e79c0d30c382eec8e33998f1bdc.pdf>）をご参照ください。

2) 女性腹圧性尿失禁について

腹圧性尿失禁は、尿道括約筋機能の障害により、腹圧負荷時に尿が漏れるものです。女性においては妊娠・出産・加齢による骨盤底筋群の脆弱化や婦人科的手術による括約筋障害に起因し、日本では約400万人の患者さんがいると推定されています。改善方法としては、骨盤底筋訓練や薬物療法があり、重症患者さんでは尿道を支えるテープを体内に挿入する手術も行われることもありますが、異物を体内に留置するという事に抵抗感を持つ方も多数おられ、新たな治療法へのニーズが存在します。